

2018 度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 6 日作成)

小委員会名	地域観光プランニング小委員会	主 査 名：岡村祐 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小浦久子 主 査 名：小浦久子
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1) 観光振興をより意識し、地域資源の保全・育成から産業化までを多様な担い手が組むことで実現する観光まちづくり像「地域観光」を実現していくための政策から事業運営までの手法＝地域観光プランニング（計画技術・方法論）の探求 2) 観光庁等の施策やDMOの議論がマーケティングに偏重しているなかで、観光資源のマネジメント（保全・育成）との両輪として進める観光地形成・経営のあり方の探求（地域環境計画・管理学と経営学の融合） 3) 上記目標の社会実装のための人材育成等のアウトリーチ方法の開発・推進	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 岡村 祐（首都大学東京）、川原 晋（首都大学東京）、姫野 由香（大分大）、海津 ゆりえ（文教大）、内海 麻利（駒澤大）、伊藤 弘（筑波大）、泉 英明（ハートビートプラン）、佐野 浩祥（東洋大）、永瀬 節治（和歌山大）、泉山 墨威（東京大）、永野 聡（立命館大）、石川宏之（静岡大）、西川亮（立教大）、山崎嵩拓（東京大）	
設置 WG (WG 名：目的)	地域観光プランニング出版WG 目的：第 1 期「観光と地域プランニング小委員会」の成果として、地域観光プランニングの理論編の執筆・出版を行う。	
2016 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス： http://tourism-and-regional-planning.com

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物（シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	地域観光プランニングカレッジの開催 （北海道倶知安町 9/21-25 開催、小委員会委員と学生合わせて 20 名参加） 観光経営人材育成講座 （2018.12～2019.1、東京都産業労働局・首都大学東京 共催）
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>(1) 地域観光プランニングの特定テーマの詳細化／事例分析 (→進行中) (4) 図書の出版 (→執筆作業進行中) (5) 連続講座の開催 (→未実施) 持続可能で質の高い観光地域の計画手法 (=地域観光プランニング) として、8つのプロセスと30のアクションを提起した「サステイナブル・ destinations (仮)」の執筆を進めた (2019年3月脱稿予定、学芸出版社)。原稿執筆にあたり、地域観光プランニングにおける資源の把握、観光プログラムの企画、推進組織体制の構築、事業実施など特定テーマを掘り下げるとともに、事例分析を進めた。 (5) 連続講座に関しては、執筆原稿に基づき実施する予定であったが、今年度は執筆に注力したため、実施することはできなかった。次年度以降、刊行図書のプロモーションも合わせて実施したい。</p> <p>(2) 合同事例調査 (→実施予定) 大半の委員が参加する合同視察の対象地として、オーバーツーリズムの問題が発生している地域を選定し、訪問した。当地にて議員、行政職員、民間事業者等へのヒアリング調査、現地踏査を行った。</p> <p>(3) 学生教育プログラムの開発 (地域観光プランニングカレッジ) (→実施) 上記の「地域観光プランニング」の一部プロセスを、学生が体験できる「地域観光プランニングカレッジ」を9月に4泊5日で実施した。対象地北海道ニセコ地域 (倶知安町) は、外資の開発圧力、インバウンドや富裕層需要の急騰、宿泊税を財源としたエリマネの推進など、観光まちづくりを巡る様々な課題を抱えている。カレッジでは、季節平準化を目指し、サマーシーズンの観光活性化をテーマに、計画提案を行った。</p> <p>(6) 公開研究会の開催 (→実施) 上記の「地域観光プランニングカレッジ」内で、9月24日に倶知安町長・行政や地元エリマネ団体の参加のもと、町民向けの公開研究会を開催した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 地域観光プランニングとして大事にしている環境管理と、観光事業・観光経営の融合・協調という点について、今後具体的に研究を進めていく必要がある。 2. 地域観光プランニングを進めていくための職能、人材、組織に関して、「カレッジ」の試行やケーススタディを踏まえて、研究していく必要がある。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。